

# 島根県立 古代出雲歴史博物館 NEWS

2007.MARCH vol. 1



## CONTENTS

- 1 日々成長する博物館に (館長挨拶)
- 2・3 開館記念式典・オープニングセレモニー・祝賀イベント
- 4・5 博物館情報 (特集展／調査研究情報／学芸員通信)
- 6・7 博物館の動き
- 8 古代出雲歴史博ボランティア／行事案内 (名誉館長講演会)



平成19年3月10日  
古代出雲歴史博オープン!

ごあいさつ

日々成長する博物館に

館長 金築 孝

3月10日、島根県立古代出雲歴史博物館がオープンしました。実に、20年以上も温められていた構想が花を開かせたのです。これまでに、いろいろなかたちで博物館構想をご支援いただいたみなさまに、心からお礼申し上げます。そして、これまでの「歴史・古代文化センターニュース」を「古代出雲歴史博物館ニュース」にリニューアルし、こうしてみなさまのお手元に第1号をお届けする運びとなりましたこと、大変うれしく思っております。

さて、古代出雲歴史博物館は開館から1か月足らずでご来館のみなさまが5万人を超え、この博物館ニュースが、みなさまのお目に触れるころには10万人を超えていると思います。まずは順調なスタートを切ることができました。これも、みなさまのご支援のおかげです。重ねて深くお礼申し上げます。

ご来館の方々の評価も高く、すばらしいというお声とか、たくさんの方がお見えでとても1時間や2時間で

は見切れない、という私にとってはうれしい悲鳴も聞かせていただきました。こんないい博物館ができて、もう思い残すことはないという方までいらっしゃいました。

一方、説明の文字が小さい、あるいは暗すぎるなどというご批判などもいただいています。私たち博物館スタッフはそのようなお声を大切に受け止め、少しずつ改善してきました。

展示の充実に加え、おもてなしの心もしっかりと養い、みなさまに感動と驚きを感じていただき、また楽しんでいただける、そんな博物館になりたいと思っています。

順調なスタートを切ったとはいえ、まだ生まれたばかりの博物館です。昨日よりは今日、今日よりは明日がよりよくなる、日々成長する博物館でありたいと願っています。みなさまのいっそうのご支援をよろしく願います。

# 島根県立古代出雲歴史博物館

# 晴れやかな 船出

3月9日・10日・11日



**島** 根県立古代出雲歴史博物館は、この3月10日に晴れやかにオープンしました。

開館前日の3月9日には、午後1時10分から定礎除幕式が、午後1時40分から開館記念式典が、厳かに行われました。出雲大社境内遺跡から出土した宇豆柱を展示する中央ロビーを会場にして、斐川町在住の笛奏者・樋野達



定礎除幕式収納品披露（金築館長）



特別内覧の様子

夫さんの土笛演奏で開幕。約500人の方に出席していただき、澄田信義知事や出雲大社の千家尊祐宮司、当館の上田正昭名誉館長に挨拶をしていただきました。出席者の皆さんには、開館記念式典の後、常設展の約3,800点の展示品と開館記念特別展の神宝・装束1,100点の展示品を内覧していただきました。

そして、3月10日開館当日には、島根県立古代出雲歴史博物館の開館を祝し、祭りや芸能など島根の伝統文化が大社に集結しました。大社のまちがまるごと祝祭の劇場に。多くの皆様の協力を得て、盛大なオープニングを迎えることができました。そして3月10日、11日のオープニングイベント開催期間中に、約8,500名のお客様に来館していただきました。

**ま** ず、3月10日（土曜日）午前8時40分からのオープニングセレモニーでは、今福優さんの



今福優さんの太鼓演奏

鷺浦の屋台船

佐田の田植え囃子

大社のしゃぎり太鼓



「澄田知事の挨拶」を前に



千家尊祐出雲大社宮司



上田正昭名誉館長



太鼓から始まり、吉兆行事の立兆・大社神謡により、厳粛で神聖な開館を迎えました。開館時には、約400名近いお客様が、オープンしたばかりの博物館に一斉に入館していただき、館内は大にぎわい！初めてのお客様を迎えるアテンダントもスタッフも大奮闘でした。



オープニングセレモニー・テープカット



澄田知事挨拶



青木参議院議員祝辞

**風** 土記庭園では、「島根いのちとまつりの讃歌」と題した祝祭舞台が繰りひろげられました。地元大社のしゃぎり太鼓の祝い打ちをはじめ、石見神楽・隠岐民謡と踊り・佐田の田植え囃子・鷺浦の屋台船・大社の大土地神楽・今福優さんと大社創造太鼓など、伝統と創造のリズムが園内に響きわたりました。

**出** 雲大社の勢溜などでは、10日・11日の両日、地元出雲市を中心にした「賑わい交流イベント実行委員会」による島根の特産品を集めた「神話の国の物産市」や元気づけと集合「市民交流フェスティバル」、アートな町並みを演出した「神門通り門前市」がにぎやかに開催されました。博物館の開館を祝う空間が出現するとともに、島根の特産品があたる抽選会もひらかれ、来館者のみなさんにプレゼントされました。

**総** 勢200名の大行列は、今福優さん・藤本吉利さんの太鼓を先頭に、佐田の田植え囃子、大社のしゃぎり、そして屋台船も加わった、まさに「出雲風流楽」。古代出雲歴史博物館から勢溜、神門通りを、華麗で勇壮な祝祭行列が練り歩き、沿道のみなさんを魅了しました。



今福優さんと大社創造太鼓

**開** 館記念の特別講演は、上田正昭名誉館長による「古代出雲の再発見」。大社文化プレイスに集ったみなさんを、古代出雲の世界にいざなう興味深い講話は、「古代出雲」を冠した歴史博物館の誕生の意義を印象づけました。

**祝** 祭の記念舞台は、「古代からの響き、未来への祈り」をテーマにした特別公演。元鬼太鼓座の今福優さんと鼓童の藤本吉利さんによる和太鼓の最高峰2人による競演は、驚きと感動に満ち溢れ、会場は一体感に包まれました。子どもたちによる創造太鼓も加わり、まさにテーマのとおり過去・現在・未来を表現する祝祭劇場となりました。

**日** 曜日には「神話の国フェスティバル実行委員会」による協賛イベント「こども神話の国フェスティバル」が開催され、神話ミュージカル、映画上映、神話クイズや勾玉づくりなど身近に神話に親しんでいただく多彩な催しが繰りひろげられました。

3月9日からの3日間は、いずれも天候に恵まれて、みなさまのご協力・ご支援のもとで祝祭行事が盛大にとりおこなわれました。「古代出雲」がよみがえる歴史博物館の門出を祝う記念すべき3日間となりました。

大土地神楽

石見・道川神楽

隠岐民謡と踊り

中央ロビー入口



## 特集展

## 並河萬里

ファインダーがとらえた世界遺産

## 写真展

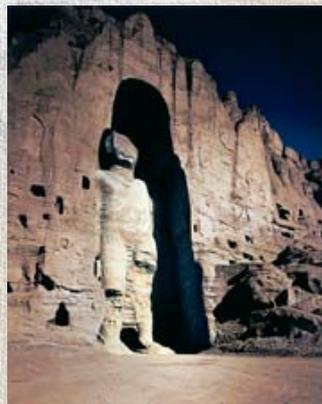
6.1(金)ー7.1(日)  
特別展示室にて開催!

並河萬里(1931-2006)——。シルクロードを軸として、世界の遺跡を撮り続けた世界的写真家ですが、惜しくも昨年5月にこの世を去りました。並河氏の両親が島根県出身ということもあり、90年代には並河氏自身も松江に居を構え、県内各地の文化財をカメラに納めています。加えて、膨大な写真フィルムを本県に寄贈され、現在、島根県文化振興財団がその保管・活用に当たっています。

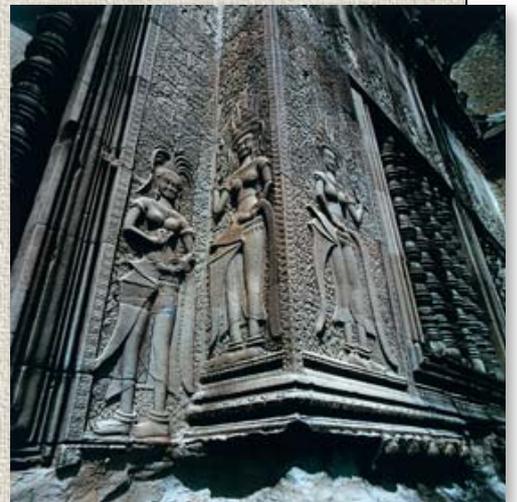
並河氏が半世紀をかけて駆け巡った各国の遺跡の数々は、今、世界遺産となって脚光を浴びています。アフガニスタンのバーミヤン遺跡など、失われてしまった遺跡も含め、並河氏がとらえた世界遺産の「その時」をここに再現し、間近に迫った石見銀山の世界遺産登録を前に、改めてその意義を問い掛けます。



パルミラ 女王ゼノビアの記念殿  
(シリア・アラブ共和国)



バーミヤン石窟 西の大仏(55m)  
(アフガニスタン・イスラーム共和国)



アンコール・ワット遺跡 デヴァター立像彫り  
(カンボジア王国)



ヘルセポリス 夕景  
(イラン・イスラーム共和国)

©財団法人 島根県文化振興財団

## ①ギャラリートーク

日時 6月2日(土) 午後2時から  
会場 島根県立古代出雲歴史博物館 特別展示室  
料金 常設展観覧料が必要

## ②講習会 ザ・写真塾「写真を楽しむヒント」

講師 原隆利 日本写真作家協会会員  
日時 6月9日(土) 午後2時から  
会場 島根県立古代出雲歴史博物館 講義室  
定員 100人  
料金 無料

## ③座談会 「並河萬里を語る」

講師 武智正信 日本写真協会会員  
日時 6月16日(土) 午後2時から  
会場 島根県立古代出雲歴史博物館 講義室  
定員 100人  
料金 無料

## ④ピンホールカメラ体験

日時 6月23日(土) 午後2時から  
会場 島根県立古代出雲歴史博物館 体験工房  
定員 30人  
料金 材料費500円必要

②・③・④については会場の都合により定員がありますので、下記のいずれかの方法でお申し込みください。

申込方法 / 1.希望イベント名 2.住所 3.氏名  
4.電話番号、をご記入の上

ファックス：FAX 0853-53-5350

電子メール：namikawabanri@izm.ed.jp

往復はがき：〒699-0701

島根県出雲市大社町杵築東99-4

島根県立古代出雲歴史博物館

特集展担当あて

## テーマ研究 から

古代文化センターでは、毎年2件ずつ新たな「テーマ研究」を開始しています。3年間の調査研究を行い、4年目に研究報告の刊行と古代出雲歴史博物館での企画展を行います。平成19年度からは次の2件が開始されます。

### ◆神々のすがた・かたちの変遷の研究

日本人が育んできた、スサノオ・オオクニヌシをはじめとする神々のイメージの変遷と、その根底に存在する日本人の神に対する意識を探る。

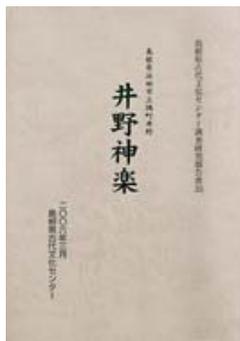
### ◆古代出雲における多面的交流の研究

「北ツ海」（日本海）を舞台とした海の交流に加え、陸を舞台とした出雲と他地域の交流にも焦点をあてながら、出雲における交流の実態を多面的にとらえていく。

## 古代文化センター出版物のご案内

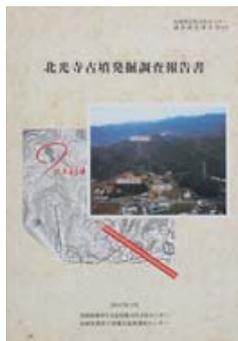
古代文化センターでは、調査研究の成果を様々な書物にして出版しています。ここでは、新刊の出版物で、販売されているものを紹介します。

### ◆島根県古代文化センター調査研究報告書35 『井野神楽』 1,000円(送料340円)



浜田市三隅町井野に伝わる井野神楽に関する調査研究報告書。井野神楽は石見八調子神楽の模式的なものとして島根県無形民俗文化財に指定されている。井野神楽はもとより、周辺各地の神楽についても比較研究の成果を掲載している。A4判140頁。

### ◆島根県古代文化センター調査研究報告書36 『北光寺古墳発掘調査報告書』



700円(送料290円)  
「出雲地方西部最大の中期前方後円墳」  
出雲地方西部最大の古墳時代中期における前方後円墳。出雲平野西部と神西湖を眼下に臨む標高約100mの丘陵上に単独で築造された古墳。盗掘を受けた前方部埋葬施設から、馬具・刀剣類、舟形石棺の破片が出土。A4判60頁

お求めは

島根県文化財愛護協会（松江市殿町1番地 島根県教育庁文化財課内）  
TEL 0852-22-5879

## 学芸員通信

### 藍板締め染色へのいざない

古代出雲歴史博物館には、全国でも希な染色技術に使用された染色資料が収蔵されています。その技術は「板締め」と呼ばれ、対称形に文様を彫った二枚の板の間に布を挟み、強く締めつけて染色するものです。当館の資料は、藍で染めたため、「藍板締め」と呼びますが、江戸時代に島根県出雲市の紺屋で使われた板が2,557枚も残されています。古くは奈良時代の染色品にも、この「板締め」の技術を確認することができますが、なぜか染色技術の伝承が行われてきませんでした。したがって、染色技術にわからない点が多いため「幻の染色」とも称されています。当館では、「藍板締め」の復元染色に取り組み、その成果をもとに平成20年3月から、企画展「蘇る幻の染色（仮称）」を開催します。また、体験学習施設「体験工房」では、板締めの原理を利用した「藍板締め」の簡単な染色ができるように準備を進めています。現在、この工房で、藍の管理や染色の指導を手伝っていただける方を募集しています。興味・関心のある方、いっしょに活動してみませんか？

（専門学芸員 浅沼政誌）

## 『授業に役立つ 古代出雲歴史博物館活用の手引き』が完成！

～学校利用のHOW TOを満載した必携のガイドブック～



博物館と学校教育の連携をめざし、学校の先生方に当館の様々な活用方法について知ってもらうためのガイドブック『授業に役立つ 古代出雲歴史博物館活用の手引き』がこのほど完成しました。平成16年夏より、2年の長きにわたって、小・中・高等学校の先生方15名と共同で検討を重ねてきただけあって、学習指導案、ワークシート、新開発の教材紹介など、内容豊富な一冊となっています。

この『活用の手引き』は、開館にあわせて、県内の小・中・高・特殊教育諸学校のすべてに配布しました。既に年度末より、4月、5月の遠足利用での予約、問い合わせが殺到中です。なお、増刷分は当館のミュージアム・ショップでも1部1,050円で販売しています。

## 県内ミュージアム施設 連携スタート

古代出雲歴史博物館は、島根県の歴史と文化に関するネットワークの拠点として、県内のミュージアム施設等との連携協力をさまざまなかたちで進めていきます。

- まず一つは、館内の情報交流室に「しまねミュージアム協議会加盟施設」の案内コーナーを設置して、各施設のパンフレット等を備え付け、施設の紹介等を行っています。
- また、4月からは、「博・博連携のための相互優待」として、古代出雲歴史博物館との相互優待割引等の実施に賛同する46の県内ミュージアム施設との間で、互いに施設をPRしながら、利用促進を図っていく事業を展開することとしています。
- 一人でも多くの県民、県外観光客のみなさまに県内施設を巡っていただくきっかけづくりにしたいと考えています。

## ぞくぞく、さまざまな誘客促進企画始まる

古代出雲歴史博物館の開館を機に、観光客の誘致、施設の利用促進を図るための様々な企画が民間企業・団体等により展開されています。

### 1 島根ワイナリー

島根ワイナリーでは、古代出雲歴史博のオープンを記念したワインセットを3月10日から発売。セットケースには古代出雲歴史博物館のマスコットキャラクターが描かれている。また、開館から3月末まで、博物館の観覧券の半券持参者には食事代10%、ワインや特産品5%引きで販売。

### 2 JAいずも

JAいずもは、古代出雲歴史博物館の開館に協賛し金利優遇特別定期貯金「雲太」を3月1日から発売。預金者には観覧優待券を進呈するとともに、商品券が当たる抽選付古代出雲歴史博PRハガキを配布して、大社・出雲地域への誘客を図る企画。

### 3 JR西日本

松江・出雲ぐるりんパスは、JR往復券、松江・出雲エリアの観光9施設の入場券、松江市内周遊バス・一畑バスの乗車券がセットになったおトクなきっぷで、今回は出雲エリアの観光施設として「古代出雲歴史博物館」がエントリー。(発売は3月17日～8月29日まで)

### 4 一畑電車沿線地域対策協議会・一畑電車

古代出雲歴史博物館入館券と一畑電車往復乗車券をセットで発売。松江しんじ湖温泉駅出発なら「大人1,500円(通常なら観覧券と往復乗車券で2,880円)」と大変おトクなセット券を限定3,000枚発売。(3月1日から5月20日まで)

# 「輝きふたたび 石見銀山展」…準備の現場から

世界遺産登録をめざす石見銀山をとりあげた「輝きふたたび 石見銀山展」を、平成19年7月14日から平成19年9月24日まで、古代出雲歴史博物館と石見銀山資料館（大田市大森町）の2カ所で開催します。

古代出雲歴史博物館会場では、16世紀に、石見銀山で大量の銀が生産され国内外に搬出されたことによって、日本の歴史やアジアの歴史にどのような影響を与えたのかについて展示します。

とりわけ、石見銀山が開発された16世紀前半、石見銀山で生産される日本銀の情報をキャッチしたポルトガル人が東アジアの果ての日本へ到達します。まずは、16世紀当時の石見の銀をはじめとした日本の銀がどのような姿をしていたのかを見ていただこうと思います。そして、それらが東西文化の交流を生み出す原動力であったことに思いを馳せていただければと考えています。また、現在の私たちの生活の中になにげなくとけ込んでいるカステラやテンプラのように、実は、この交流によってもたらされたものがあることに改めて気づいていただけるような展示を心がけたいと思います。

(専門学芸員 佐伯徳哉)



石州銀(3点)

## 「古代食」の開発・普及事業について

この事業は、平成16年度の県職員提案事業「しなやかプラン」で「古代出雲歴史博の開館を契機に古代食で地域振興を」という提案がなされたことが発端となりました。翌平成17年度に大社商工会に委託し、同会を中心に、調理師などを含む地元の方、出雲市職員などで「古代食開発実行委員会」を結成し、古代食の研究と開発に取り組みました。

同実行委員会では、ほぼ月1回のペースで講師を呼んで勉強会や討議を重ねるとともに、8月には、京都・奈良方面へ古代食調査のバスツアーも実施しました。「古代食とは何か」から始まって試行錯誤の連続でしたが、最終的に「うずに」を中心とした古代食メニューを完成させ、平成18年3月には関係者を招いて試食会を実施しました。

メニューが完成すると、今度はこれをどう普及させていくかが課題となります。そこで、平成18年度には再び大社商工会を中心に普及事業への取り組みを進めました。

事業内容は①地元大社町での提供—調理師を対象とした講習会の開催②県外からの観光客等へのPR—1月に広島市で開催された「しまねふるさとフェア」への出店③PRチラシ・ポスターの作成などです。

その成果として、古代出雲歴史博物館の開館にあわせ、出雲大社の伝統料理「うずに」を中心とした「うずに膳」が大社町内10の旅館等で提供可能となりました。

紙面をお借りして、2年間にわたりこの事業にご協力いただいた大社商工会をはじめとする関係者の皆様に感謝の意を表しますとともに、この「古代食」が古代出雲歴史博物館ともども地域の振興につながることを願っています。



### 古代食メニューのひとつ「うずに」

「うずに」は、神代からの系譜を持つ出雲国造家に代々伝えられる伝統のおもてなし料理であり、出雲の豊かな田畑や山・海の幸、そして、神話と風土記の世界を一つのお椀の中に見事に融合させたもので、旧暦元旦の子の刻に執り行われる出雲大社福神祭において供される。

## ●悠久の碑

博物館の庭園内に碑があります。県産の御影石にコールテン銅がはめ込まれ、一風変わった仕上がりになっています。たたら製鉄の古びた鉄のイメージを表すため、博物館西側の外壁に使われているコールテン銅（表面を錆びさせた鋼板）がここにも使われています。

さて、碑に彫り込まれている文字は、澄田信義知事の揮毫によるものです。知事が就任した20年前は、荒神谷遺跡から大量に出土した銅剣の歴史上の重要性が世間に浸透してきた頃でした。その後、加茂岩倉遺跡での銅鐸の大量出土、出雲大社の巨大柱発見と、歴史上の重大発見が続き、古代出雲文化展の成功等により、島根の歴史・文化の重要性を発信することもできました。島根の歴史文化を全国に、そして後世に伝えることは島根県のレーゾンデートル（存在意義）という知事の想いが、この古代出雲歴史博物館を完成させる原動力になりました。



私たちもこの碑を見る度に、島根の「悠久」の歴史とそこに育まれた文化をしっかりと伝えていきたいと思えます。



## 古代出雲歴史博ボランティア

美術館に展示してある絵画、彫刻などは、見るだけでも十分に価値があります。しかし、古い土器や錆びた金属器など歴史系博物館の展示物は、説明を見たり聞いたりしないとなかなか価値が分かりません。そのため、展示物に説明文を付けたり音声ガイドを用意したりしていますが、最も分かりやすく印象に残るのは、何と言っても「人」による説明です。物言わぬ文化財に代わってその価値を正しく伝える展示解説や通訳のボランティア。その役割は、今や博物館にとって不可欠であり、博物館の魅力を高めてくれる大切な存在です。

また、古代出雲歴史博では、子どもたちに古代米作りや勾玉作りなどの体験をしてもらう事業を実施することとしておりますが、その際のお手伝いをしていただくボランティアの役割も大切です。

当博物館には、現在、69名の皆さんにボランティアとして登録していただいております。展示解説をはじめとするさまざまな活動を行っていただいております。今後、その活躍の様子をこのコーナーで順次、紹介してまいります。新たなボランティアの募集もまもなく開始します。あなたも参加してみませんか？

## 第5回講演「有職故実からみた神宝・装束」& 座談会

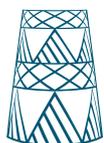
**【日 時】** 5月12日(土) 14:00～16:30  
**【講 師】** 近藤好和氏（神奈川大学特任教授／国立歴史民俗博物館客員教授）  
 （座談会）当館職員

## 島根県立古代出雲歴史博物館 上田正昭名誉館長特別講義のお知らせ

**【日 時】** 5月13日(日) 11:00～12:00  
**【場 所】** 古代出雲歴史博物館 講義室（島根県出雲市大社町杵築東99-4）  
**【講義内容】** (1)講 師 上田正昭（島根県立古代出雲歴史博物館名誉館長／京都大学名誉教授）  
 (2)テーマ 古代出雲と「北ツ海」の文化

### 【申込み方法等】

定 員：80名（定員になり次第しめきります）  
 申込方法：FAX、ホームページの申込フォームに住所、氏名、電話番号を記載、電話による申込み可  
 申 込 先：島根県立古代出雲歴史博物館 〒699-0701 島根県出雲市大社町杵築東99-4  
 TEL：0853-53-8600(代) FAX：0853-53-5350 WEB：http://www.izm.ed.jp



発行／平成19年3月

島根県立古代出雲歴史博物館  
 Shimane Museum of Ancient Izumo

〒699-0701 島根県出雲市大社町杵築東99-4  
 TEL.0853-53-8600(代) FAX.0853-53-5350  
 URL：http://www.izm.ed.jp  
 E-mail：contact@izm.ed.jp



マスコットキャラクター  
雲太くん



マスコットキャラクター  
出雲ちゃん